

「失われた30年」の危機的状況・・・

市民憲法集会にて神野直彦氏のお話を聞くことができました(2019年5/3)。金子勝さんが大けがをされてしまい金子さんからの依頼を受けての急きょ神野さんの講演となりました。

金子さんのレジメ“この失われた30年の危機的状況の根本原因を見極めない限り、異常な財政金融政策を続けても未来は失われるばかりだ。それは中央銀行の金融緩和で社会保障を賄うという「思考停止」にも共通している。克服しなければならないのは「失われた30年」の政策体系其の物である”を受けての神野氏のお話。



神野氏は最初にいまの世の中“近視眼的な視点”ばかりで“目先の利益を追っていたのでは未来は暗黒”と本質を問う立場の大切さを指摘。そして戦後71年たった今、まさに“危機＝クライシス＝峠”でありその先は破局か新しい方向を掴み生きていくかでしかない。だから“来るべき戦争に”に対してどう対処するか私たちは根本的に問われていると状況を分析。

貨幣がジャブジャブ状況の説明として貨幣の本質論から入りました。貨幣はかつてのように金や銀との一般等価物に収れんされていた時代ではなく、今日は「国家の強制的運用」と「人間との結びつきへの信用による運用」によって通用する時代。それなのに貨幣への信用をなくそうとする“2%のインフレ政策”を日本政府が行っている事の不合理性を指摘。しかもマイナス金利の状況から金利を上げることができない程に債権へ投資している状況はまさに危機的状況と。

“実体経済に投資せず債権への投資だけ”は日本だけでなく世界中が貨幣ジャブジャブ状況の中で行われている。世界中の経済秩序が崩壊しており、そのなかでの日本の失われた30年。

日本の失われた30年は①経済成長が無い②格差と貧困が拡大③新しい産業構造を全くつくりだしていない④そして家族の崩壊・信頼関係の崩壊から民主主義の崩壊へと。

具体的にこの30年間の世界の経済成長を分析。米国は成長、EUは成長から横ばい、中国は横ばいから急成長、日本は30年間横ばい状況。経済成長もない日本の原因について、脱工業社会に変わるべきなのに産業構造を変えなかった。ルールが変わっているのに前のとうりにかつての高度成長期の“重化学工業・固定為替相場”の考えに乗っていたからだ。

生産要素である土地・労働・資本が国境を越えて自由に動き回るのがグローバル化。特に1973年変動相場制に移って資本が自由に国境を超える社会に変化したのに、しかも重化学工業からサービス・知識集約産業へと推移しているのに対応しなかった。

北欧のスウェーデン、フィンランドでは“社会民主主義”の立場に立って新しい産業へ人が移っていけるように①労働市場の弾力化(フレキシブル)で労働者

の首切りをしやすくし②其の首切り後の国民の生活を守る社会保障制度（セキュリティ）③更に新しい産業への再訓練・教育（アクティビティ）へと対応することで新しい産業への転換に成功した。

それに対し、日本は新たな産業構造へと変えず、ただ賃金（労働市場）へのフレキシブルを導入し賃金低下を招いたのです。さらに サービス・知識集約産業の労働力である女性の社会進出の為に生活保障、保育・福祉で支えていく施策にも十分に対応していないが故に労働市場における格差と貧困が拡大。労働市場の正規・非正規の二極化を促進しただけ・・・しかも経済成長もない。

格差と貧困の問題について、数値が大きいほど格差のあるジニ係数と相対的貧困率によって日本の状況を説明。米国はジニ係数が 0.38 で貧困率は 17.1%、ドイツは0.293と8.7%、スウェーデンは0.273と9.7%、デンマークは0.225と6.0%。日本はジニ係数 0.336 で貧困率が 16.0%で米国と同様に格差と貧困の大きな国。米国は経済成長を実現しているが日本は経済成長もしないというえに格差と貧困を拡大。

にもかかわらず日本国民へのアンケートで“格差と貧困が大きいか？”と問えば60%がそうだと答えるが、“この格差と貧困を是正すべきか？”と問うと是正すべきと答える人が20%・・・これから何を見るかと問題提起をしました。



「日本の失われた30年」は産業構造が変わらず、格差と貧困が拡大し、経済成長すらない30年間に日本社会の人間間の信頼が失われてきた。未来を担う子どもたちの孤立感是世界で一番高いと言うアンケート結果からも“家族の崩壊”“障がい者も存在することで大切という考え方の崩壊”、それ故に“親和的な対立”と“親和的な論争”によって成り立つ民主主義が崩壊していると、今日の危機的状況を示唆しました。

戦後1945年の大衆民主主義は今や民主主義への幻滅・絶望へと。選挙での投票率の低下、環境問題への意識の喪失（10年前環境問題への関心57.8%が今では40%に）すら生み出している社会に。

この現実から何を考え何をすべきか？“峠”の先に新しい経済と社会の構想を、「分かち合いの経済」と格差と貧困の解決を含めた「一人一人に寄り添う地域ケアの社会」とで創っていかねければと思われました。でなければ歴史が示すように戦争・破局へと進んでしまうでしょう。破局への社会の矛盾の内実をこの30年間に造り出してしまっているからです。